

館長の紙BLOG

2008/09/01

ダーウィン気分

8月のあいた閲覧席を埋めていた学生利用者の姿が、潮が引くように少なくなり、夏が終わったことを実感しました。

図書館稼業に夏休みはもろろんありませんが、そこをなんとか休暇をひねり出して秩父の雄峰、武甲山に登ってきました。

登っていくほどに木々の葉はびっしり繁つて緑はいよいよ濃く、夏の山が発散するエネルギーはたくましいばかり。あまごさえ妖艶な金属光沢のガラスゲムをはじめさまざまなチヨウが乱舞し、ナナフシやザトウムムまで歩きまわる始末で、秩父の山は動物たちも元気がいいでした。

さて、ナナフシは、胴体も肢もどこから見ても枯れ枝そのもので、これはもう擬態の帝王ですね。林に逃げこんだなら、ちよつとやそつとでは発見できなくなります。ザトウムムはクモの親戚ですが、なんでここまでと訝しいまでに肢がすらりと長く、足が長けりや速く走れるのは北京オリンピックでも目に焼き付けた世の道理で、このいきものもまた俊足です。

このように動物は(植物も)カタチとムラキが協調しています。長い長い時間をかけて形態と機能が相伴って進化、発達を遂げ、生き抜くための「芸」を磨き上げてきたのです。百五十年前にダーウィンがずばり、と衝いたところですね。

そこで図書館方面に強引に話を移しますと、篠崎図書館は「大人のための図書館」であるその「機能」と、夜おそくまでの開館時間、ビジネス支援のためのインフラ整備などの形態を結びつけようとしています。少ない資源を最大限に生かすためには、「なんでもあり」の生き方を捨て、得意技に秀でる道を選び取りました。このようにして当館は独特のしかし実りが期待される進化ルートに踏み込んでいきます。

イベント情報9月・10月

特集展示

「くだものだもの。」

期間:8月25日～9月21日



くだものがしつとりと実る季節に読む、くだものをテーマにした文学はとりわけみずみずしさがいっぱいです。ほかにも、くだものの紹介、くだものにまつわる人やできごとなど図書館でできる「フルーツ大全」をお楽しみに。

「ほんのほん」

期間:9月23日～10月26日



読書好きの人は本そのものが好きという人も少なくないのでは・・・愛する本について書かれた本でさらに書物愛を深めてみませんか？

G. プッチーニ生誕150年記念特別講演

プッチーニの嵐



講師 ウーロン亭ちゃ太郎師匠
(オペラナビゲーター 洗足学園大学講師)

- ・日時: 2008年9月21日(日) 14時～16時
- ・場所: 篠崎文化プラザ 講義室
- ・定員: 100名(先着順)
- ・入場料: 大人500円 小中学生100円 幼児無料
- ・主催: 篠崎文化プラザ
(主管)江戸川区立篠崎図書館
- ・問合せ: 文化プラザ (03-3676-9071)
または篠崎図書館(03-3670-9102)まで

三二展示

「野鳥を探しに」 期間:9月1日～9月23日

「赤毛のアン」 期間:10月1日～10月19日

篠崎図書館がオープンしたら、こう使ってみたい

地域の方々から期待や提案の声をいただきました。今号は図書館のビジネス支援サービスについてのご提言を紹介いたします。わたしたち図書館スタッフがいつも念頭に置かねばならないビジネス支援策についてずばり、と斬りこんでいただきました。

私の図書館に対する期待 - ビジネス支援サービスの有効性

日本経済は、国内では少子高齢化、マーケットの縮小という難題に直面し、グローバルでは新興国市場で更なる発展期を迎えるという、両極面を持つ成熟期を迎えています。そして、その消費行動は、高度経済成長期の物的充足から心の充足へと変化しています。今、この成熟化社会の潜在的ニーズを掘り起こし、新たな需要と雇用を創出するベンチャー創業が切望されており、地域密着型ビジネス支援組織の活性化が不可欠となっています。

そこで、図書館をビジネス支援組織の地域活性化拠点として利用する案が考えられます。身近で、誰もが手軽にハード、ソフトを無料で利用できます。更に、公費で賄われる図書館をビジネス支援情報のポータルとする事により、全国の図書館及び関連行政機関の人的資源、蓄積された知的資源や中小企業支援ノウハウも利用できるのです。

これは、非常に経済合理性の高い手段です。ベンチャー先進国の米国では、ビジネス支援における図書館の地位は既に確立されているのです。

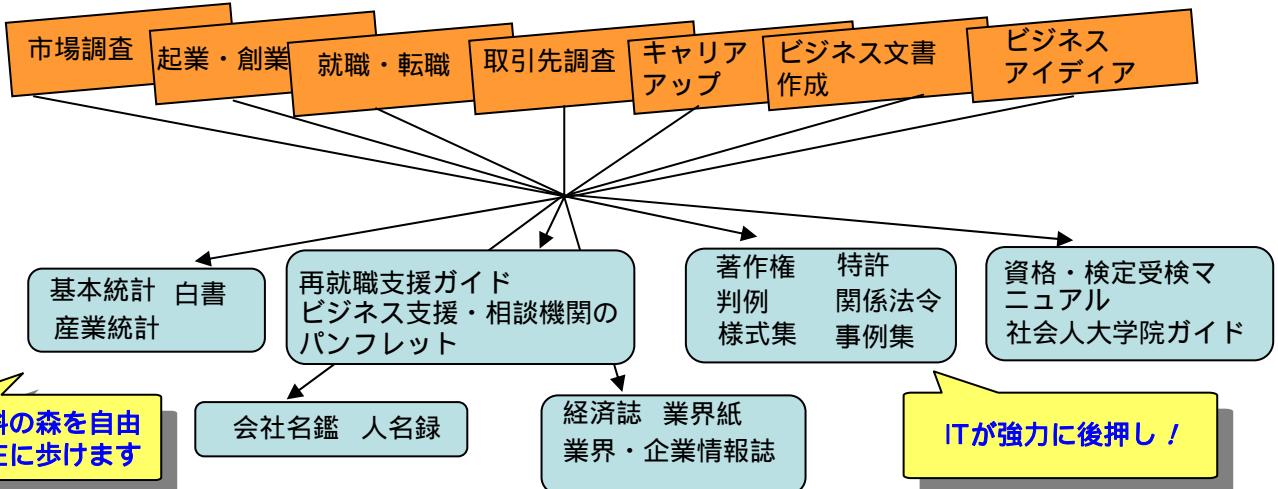
具体的には、まず公共性の高い図書館をリード役として起業家、地域企業、有識ボランティア、ビジネス支援団体等のビジネス支援ネットワークを作り、そこでセミナー、異業種交流会等の開催を促進し、関係者を更に有機的なネットワークで結び付けていきます。やがてそのネットワークを全国のみならず、世界のビジネス支援組織に広げることも可能でしょう。このネットワークが意欲あふれる地域産業の自助努力やベンチャー創業の支援、グローバル化、地域雇用の拡大に貢献し、必要不可欠な存在となるのです。さらに、支援組織が自ら主体となってビジネスモデルを構築し、ベンチャー創業を重ねていく米国型ベンチャー・インキュベーターに発展する可能性も十分にあり、非常に興味深いものです。

成果が出るまでには図書館関係者の熱意と労力、多大な時間、関係住民の自発的協力が必要です。しかし、情熱をもって人と人の輪を広げ、住民全体を味方につけていけばいつか必ず理想が実現すると信じております

加藤浩次氏
(MBA 事業再生コンサルティング、M&Aビジネス会社を起業 江戸川区南篠崎町在住)

<篠崎図書館はこう応えていきます>

わたしたちは地域館という制約がありますが、ビジネス支援サービスを図書館の重点機能ととらえ、インフラ整備をすすめています。下に、現在の篠崎図書館でキャッチできる情報とそのソースについてまとめてみました。



ビジネス支援のためのインフラ整備の先陣を切ったのがオンライン配信の「デジタル情報データベース」。当館では現在6種類にアクセスできます。

ニュース、記事など「時代性」を求める調べものには？ → **聞蔵 ビジュアル**

AERA、週刊朝日、1945年以降の朝日新聞の記事の検索と閲覧ができます。その名のとおり画像のビジュアル性に優れています。

株価や企業動向などのビジネス情報を得たいときには？ → **日経テレコン21**

ビジネス情報データベースの大御所。日経4紙の記事検索や、企業情報、マーケット情報の横断検索ができます。

用語、新語などことからの調査したいときには？ → **JapanKnowledge**

百科事典をはじめ、人名辞典、時事用語など20以上の事典・辞典コンテンツから知りたい項目をサーチできます。画像も閲覧することができます。

法律を身につけて仕事をしたい人のためには？ → **LexisNexis JP**

判例・法令や裁判書式、特許審判の審決など法律全般の検索と閲覧ができます。法律を制する者はビジネスを制する時代になりました。

農業、農政から食育まで幅広く知りたいときには？ → **ルーラル電子図書館**

本格的営農から家庭菜園のレベルまで農と食の知恵袋としてお使いください。また、環境とスローライフについても充実しています。

法令、省庁や政府の動きをフォローするためには？ → **官報情報検索サービス**

政府が公示する法令、辞令、予算などを掲載する官報の記事検索ができます。

デジタル情報データベースはITコーナーに設けた専用席にてお一人30分（30分延長可）のご利用となります（より多くの方にご利用いただくため、ご理解とご協力をお願いします）。当館と中央図書館だけで提供できるこの新しいサービスをどうぞこの機会にご利用いただき、ポテンシャルをおたしかめください。



講演会レポート！！

篠崎図書館ではオープニング企画として7月12日に「わたしと日本、そしてインド」と題する講演会を開催しました。講師は区内瑞江にある国際インド人学校（GIIS）のニヤンタ・デシュパンデ代表。黒澤映画を糸口に日本になじまれた氏は、ムンバイ生まれの現在35歳。深みのある日本語で教育について斬新に語られ、30人の参加者一同得るものが大きかったようです。



ば、集中力を養ってくれる道具としてソロバンがインドの学校に採用されはじめています。

・地域性を認識しなければほんとの世界性や国際性は身につかない。GIISではグローバルとローカルを両立させる教育を実践している。

エンピツと紙を使ったインド式計算法の実習もあり、久しぶりに大脳皮質が刺激されました。また、「少年時代の図書館での読書が現在の自分を支えている」と話されたくだけりでは、われわれの図書館も地域拠点として愛されるようにがんばらねば、と思いをあらたにしました。質疑応答も活発におこなわれ、国際都市をめざす江戸川区に密着したイベントとなったのではないのでしょうか。会場では「インド式たし算かけ算 ます目パズルで数遊びドリル」（小学館 2007年）など氏の著・監修になる本を5冊展示し、花を添えました。



講演の一部を紹介いたします

- ・急成長を続けるインドのIT産業は、「インド式勉強法」によって鍛え抜かれた頭脳の労働者が支えている。
- ・インドと日本のそれぞれの「知恵」を生かす。たとえ

スタッフのセレクション！ その第2回

このコーナーでは、篠崎図書館で働くスタッフが、ほとんど個人的趣味で選んだオススメ本やCDを毎号紹介してまいります。今号は、音楽の「巨匠」Kさんが選んだ、珠玉のCDの登場です。

オン・アン・アイランド / On An Island
デヴィッド・ギルモア / David Gilmour
(ソニーミュージック ジャパン 2006年リリース)

ピンク・フロイドのギタリスト、デヴィッド・ギルモアの22年ぶり！のソロ3作目である。全英チャート1位に上り詰めた。フロイドとして初来日した71年の「箱根アフロディーテ」ライブは今や日本のロック史の伝説となっている。そのデヴィッドも今年で御歳62。この作品は「還暦」となる2年前の誕生日にリリースされた。

妻や友人たちと休暇で訪れた地中海のさびれた島、その夜語った人生や死がモチーフになっている。躍動的な曲こそ少ないが、その絹のようなやわらかい作風は「月夜の海」を想起させる。サクソやリュートも披露しているが、やはり特筆すべきは小手先にとられることのない

「一音入魂」のギター・ソロに尽きる。数年前、某海外誌において「ギター・ソロ賞」に輝いていたが、その繊細な音は名人芸というよりはもはや神業の域にあり、もちろんこのアルバムでも堪能することができる。

この数年、単曲ではなく、「作品主義」重視のアルバムが少なくなってしまったが、このアルバムは其中でもまちがいなく最高の部類に入る。

2005年の「LIVE 8」コンサート（ロンドン）でピンク・フロイドが「一時的な再結成」をみせて以降、一部のファンのあいだではフロイドの本格的再始動説も飛びかっているもよう。今はただ、このアルバムをすり減らしながら「その日」を待ちたいと思う。

と、渋谷陽一風にキメてみた。

【本CDは篠崎図書館にあります。

G1テ 54-0005906-0】



図書館と同フロアでカフェと伝統工芸品の販売をしています。

* 9月末日までの期間限定サービス *
「かしだしけん」をご提示いただきますと、スタンダードコーヒーが20%割引になります。



一杯の珈琲と一冊の本。ゆったり、ゆっくり。

江戸川まいにんぐ 発掘第2回

庚申塔

江戸川区を「元佐倉道」という由緒ある街道が横切っています。この街道は、日本橋を振り出しに小松川を過ぎ、小岩、佐倉を経て成田に達する参詣ルートでした。

成田山まで出かけるのはちょいとしんどい善男善女は町内会レベルの庶民信仰に頼り、お地蔵様や庚申塔を大切に守っていました。元佐倉道や、その脇道に庚申塔がいくつか残っています。

庚申信仰は起源や発達に複雑なねじれがありましてバラエティに富み、江戸川区では修験山伏系の流れをくむ「青面金剛（しょうめんこんごう）」信仰と合体した系統が優勢です。密教的忿怒形の金剛童子像をリアルに彫ったものや「青面金剛」の文字だけを刻んだものがあります。

いずれも「申」関係信仰としておきまりの、目と口と耳をおさえた「三猿」が刻まれています。ちなみに画像左の塔は1826（文政9）年、右は1724（享保9）年の

造立で、どちらも篠崎街道沿いにあります。

庚申講では60年ごとにめぐってくる庚申の年に庚申塔を立てることが多いのですが、先の3つの塔の造立年はそれにあたらぬので、もうひとつのきっかけである「七日庚申」の年につくったのかもしれませんが。

（miningとは：資源や情報を掘り出すこと）

